

麦づくり情報(No.1)



1. 気象概況

平均気温は、11月4～5半旬は平年より高く推移したが、その後は概ね平年並で推移した。11月19日に一定量の降雨(37mm)があったが、その後は12月下旬までほとんどなく、11月の降雨量は平年比74%、12月は平年比60%と少雨・乾燥傾向が続いた。11月～12月までの日照時間は平年比118%と多照であった。

2. 生育概況

播種作業は乾いている圃場が多く、順調に行われた。11月中旬播種の小麦は、播種後、天候に恵まれ、順調な出芽・生育となっており、現在4～5葉期となっている。11月下旬播種の小麦は、播種後、少雨・乾燥に見舞われ、出芽が遅れ、現在2～3葉期と播種時期により生育に差が見られる。大麦の播種作業は、11月下旬より始まり、12月上旬がピークとなった。12月上旬播種の大麦は、現在出芽期～1葉期となっており、12月の少雨・乾燥による出芽遅れが大麦全般の圃場で見られる。

3. 今後の管理

○再播種

圃場全体が出芽不良の場合、早急に土中の種子の状態を確認



種子から芽は出ているが、すでに枯死している場合は再播種を検討

・播種時期、量

- 経済的な播種限界は小麦、大麦ともに 1月15日頃であるが、播種が遅くなるにつれ収量は減少するため、できるだけ早く実施する。
- 播種量の目安は、小麦：10～11kg/10a、大麦：11～12kg/10a

・種子の準備と播種作業

少しでも苗立ちを早く良好にするためには、以下の種子予措(浸種)を参考にする。
※シロトビムシ類の発生が多い圃場では、種子消毒(クルーザーFS30等)を実施する。

【浸種の方法】

- ① 12～24時間水に浸漬し、浸種種子を半日～1日乾燥させる
- ② 種子消毒をして播種する
※浸種後は粒が膨張しているため、播種機の開度を通常よりやや開いて播種する

・施肥量

元肥+追肥の施肥量の7割を元肥に施用し、中間追肥は施用しない。

※元肥40kg/10a+追肥20kg/10aの場合 → 元肥42kgのみ 施用する。
また、大豆跡は、更に施用量を10kg減じて施用する。

○追肥

- ・地域の暦に応じて、基準量を施用する。
- ・11月下旬以降播種の圃場では、出芽が遅れているため、追肥の時期は例年より遅れる見込みである。
- ・追肥の目安時期 **(本葉3~4葉期)**
11月下旬出芽揃い圃場：1月上旬頃、12月上旬出芽揃い圃場：1月中下旬頃、
12月下旬出芽揃い圃場：1月下旬頃

※大豆跡は暦を参考に減肥する（大麦圃場は施肥しない）。

※出芽揃い期が年明けとなった圃場は、今後の管理は晩播同様と考え、追肥を施用しない。

○麦踏み・土入れ

<麦踏み>

- ・3葉期以降から始める。土壌の碎土（3cm以上のゴロ土）が悪い圃場では出芽期~2葉期の生育初期に行うと、断根等による初期生育を阻害することがあるため行わない。
- ・麦踏みは必ず土壌が乾燥した状態で行い、土壌が湿潤な状態では行わない。

<土入れ>

- ・本葉5~6葉期から、雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に実施する。
- ・分けつ初期に土入れする土の量が多いと、分けつを抑制することがあるため、基本的に土の量は、生育初期は少なめに、生育が進むにつれて量を増していくこと。

※播種量が多い圃場が散見

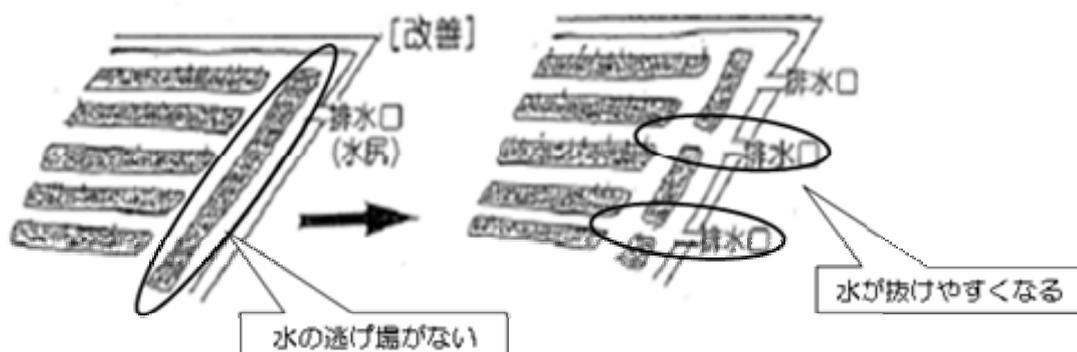
苗立数が多い圃場では、過剰な麦踏みは控え、例年より土入れを1~2回多くし、過剰分けつの抑制を図る。

※播種量を多く播種した場合【多量播種は厳禁！！】

標準量播種に比べ、苗立数が多く、茎が細くなり、倒伏に弱くなる。そのため、タンパク質含有率向上に必要な穂揃期追肥が施用できず、低タンパク麦への道をたどる。

○排水対策

- ・生育初期の湿害が、今後の生育に大きく影響する。
- ・2月の降雨が多くなる前までに、土入れに加え、溝をまくら地まで通すなどして排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。



○雑草対策

雑草の発生が見られる圃場では、生育期処理剤（ハーモニー剤等）で早めに対処する。

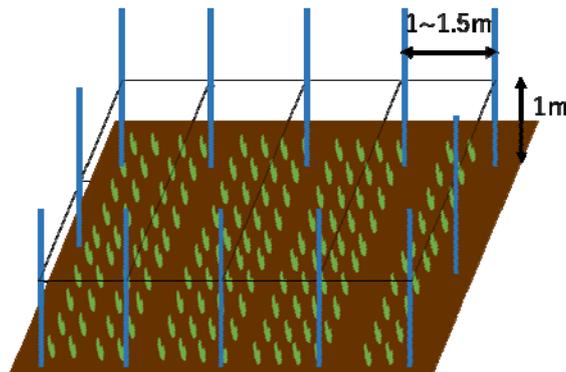
【注意】 麦踏み：麦踏み前後の除草剤散布は、薬害を助長するため避ける。

土入れ：除草剤散布直後に行うと、有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。

○鳥獣害対策

・カラス

黒のワイヤ線としなりやすい支柱を用いて、カラスの翼を広げた時の長さ（1～1.5m）の間隔で約1mの高さに設置することにより、飛来するカラスは嫌がる。ただし、歩いてくるカラス、ハトやカモには効果がない。

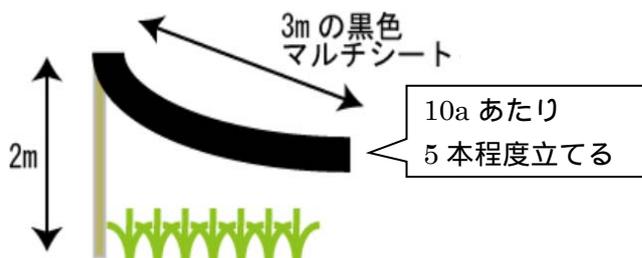


・カモ

特にクレーク沿いにある圃場など食害に遭いやすい圃場では、のぼりを立てる等の対策を実施する。

【のぼりの設置について】

支柱に黒色マルチを吊したものを設置する。カモは水路から侵入することが多いため、圃場の水路寄りの部分を中心に設置すると効果的である。

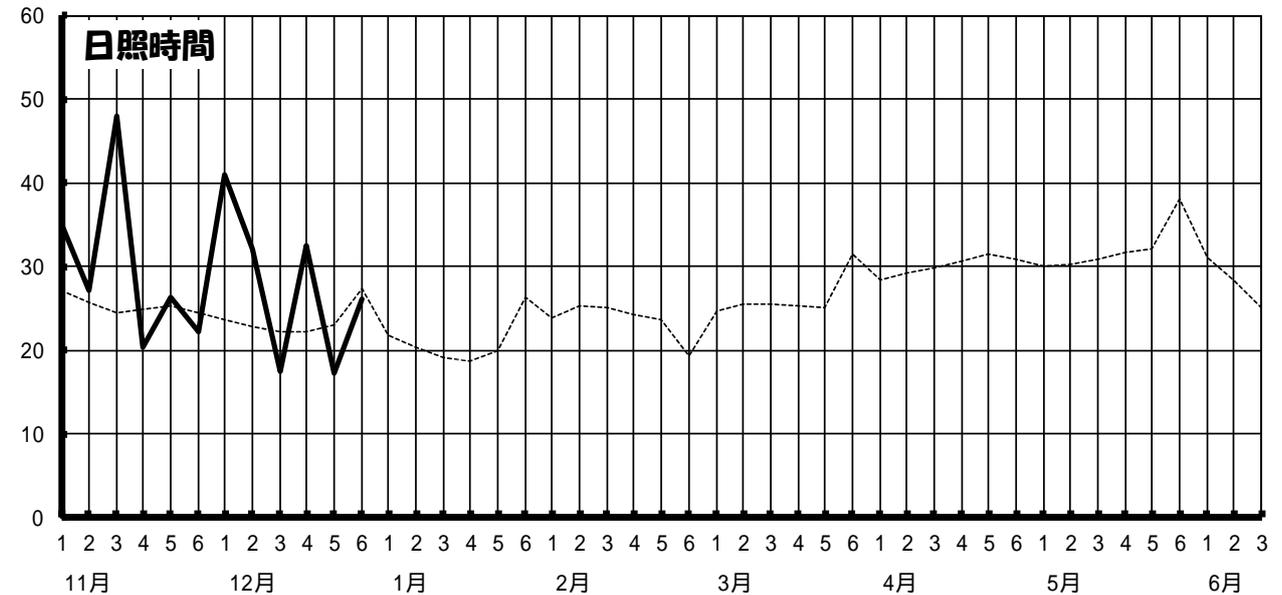
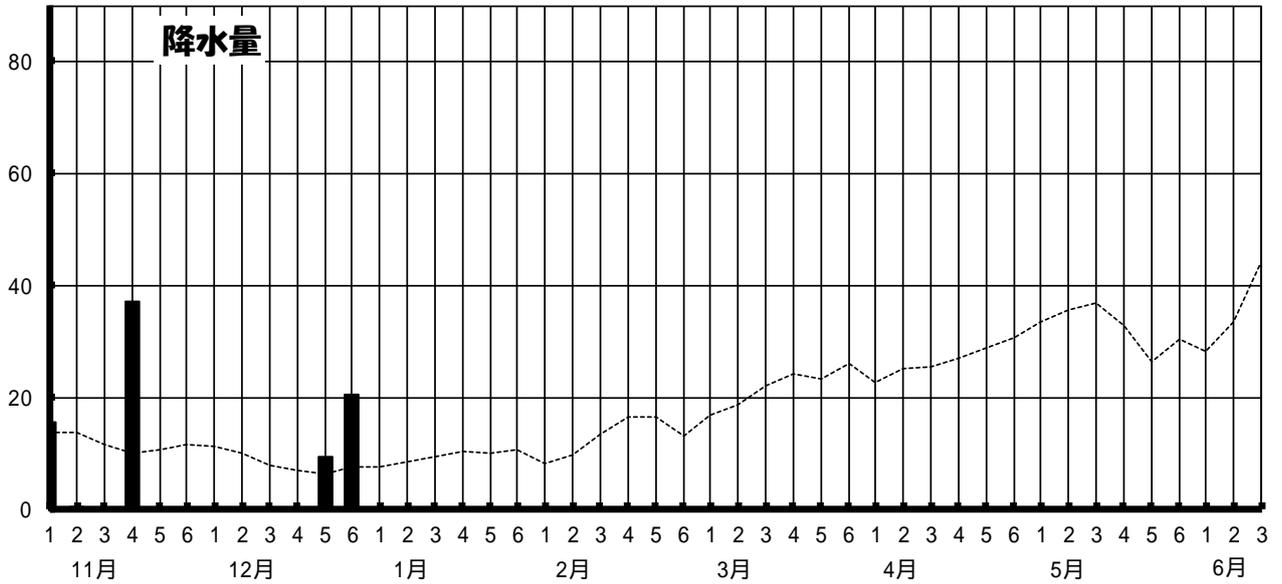
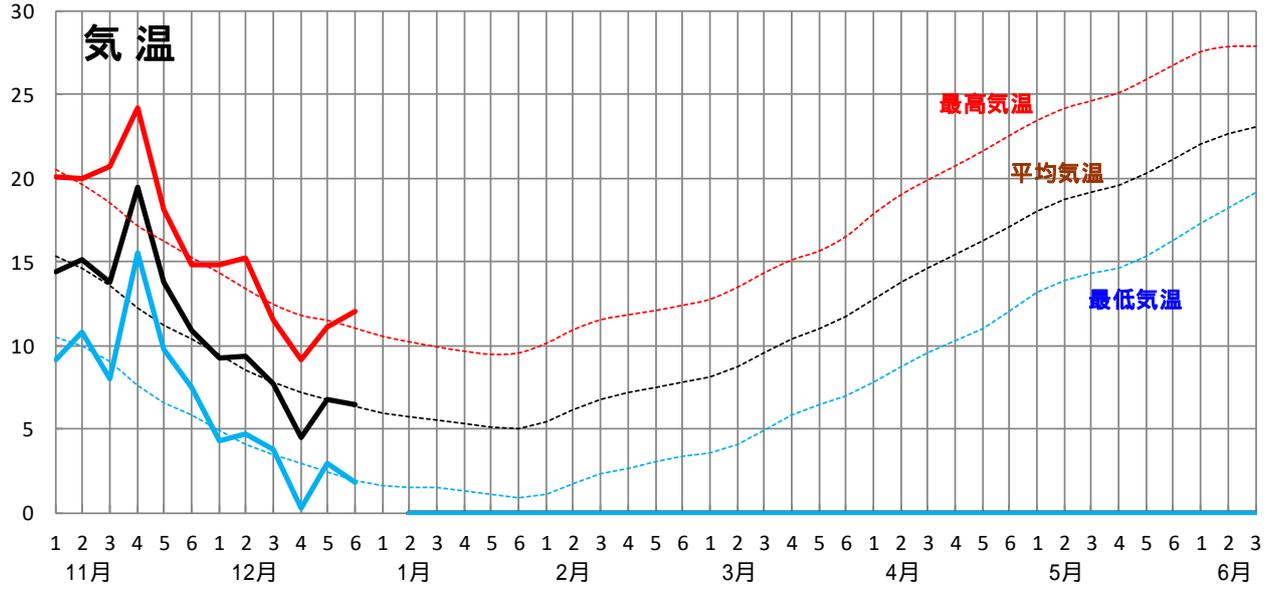


カモによる食害
バリカンで剪定したように見える

令和3年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値